

奨励賞を受賞して

千葉大学大学院 薬学研究院 製剤工学研究室 東 颯二郎

この度は、シクロデキストリン学会奨励賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。シクロデキストリン学会長である東京工芸大学教授 高橋圭子先生、および選考委員会並びに関係の諸先生方に深く御礼申し上げます。また、本奨励賞にご推薦頂いた、千葉大学名誉教授 山本恵司先生に心より感謝の意を示したいと存じます。

私がシクロデキストリン(CD)に出会ったのは、2004年に学部4年生として研究室に配属され、初めて研究テーマを頂いた時です。製剤工学研究室では“分子製剤学”を看板に掲げ、難水溶性薬物の溶解性を改善する固体製剤の設計とその物性評価を行っています。研究室では、CD以外にも様々な固体製剤の研究に取り組んでいますので、振り返って見るとCDに関するテーマを初めに頂いたのは私にとって非常に幸運であったと思います。研究を始めてからは、CDの興味深い性質に魅了され、学生時代を含めると10年の間、大いに熱意を持ってCD研究に取り組ませて頂きました。

今回の受賞対象となった「CD同士で形成される空間を利用した新規CD複合体の設計」は、筆者が修士2年生の実験の予備検討を行っていた際にひょんなことから見出した事象を検討したものです。ほとんどのCD研究では、CDの空洞内にゲスト薬物を包接させます。一方、本研究ではCD空洞内ではなく、結晶状態のCD同士で形成される空間にゲスト薬物を封入します。CD空洞内以外を宿主空間として利用するのは一般的とは異なる事象であったため、実験当初は我ながら非常に懐疑的でした。現在ようやくその事象を把握しつつありますが、これも山本先生をはじめとして、研究のご指導を頂いた諸先生方の研究に対する懐の深さと原理原則に基づいたご指導の賜物と感謝しています。今後も“分子製剤学”の観点から、本研究の応用も含めたCDが示す新しい可能性を提案していく所存です。

近年、CDに関する技術開発が革新的に進み、食品や化粧品など我々の身の回りでもCDが応用される場面を目にする機会が多くなりました。医薬品分野においても、古くから多くの製剤にCDが使われています。一方、その高いポテンシャルを考えた場合、CDの特性をいまだ最大限発揮できていないと感じています。本受賞を励みに、自身の研究を発展させるとともに、特に医薬品分野へのCDの更なる普及に貢献していきたいと考えています。

最後になりますが、本研究の遂行にあたり日夜研究に邁進してくれた学生の皆様にもこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。